

## 森林利用形態の変遷とその社会的・経済的ドライビングファクターの解明

宮本麻子（森林総研・環境計画）

### 1. 森林利用変遷マップ進捗状況

現在までに整備したデジタルデータ：

- ・ 環境庁植生図
- ・ 国土地理院 50mDEM および DEM から作成した方位図、傾斜図
- ・ 北海道地図 10mDEM（一部地域）および DEM から作成した方位図、傾斜図
- ・ 国土数値情報土地利用メッシュ：1976年、1988年、1991年
- ・ 国土地理院 2万5千地形図：1998年

入手しているペーパーベースデータ：

- ・ 空中写真（林野撮影 密着モノクロ 縮尺 1/16,000）：1961～1997年の多時期
- ・ 森林計画図 縮尺 1/20,000：2001年
- ・ 旧地形図 縮尺 1/50,000：1908年、1933年、1951年、1973年、1984年、1989年

上記のデータにつき、それぞれ整備と入手済み。

### 2. 次年度以降の予定

阿武隈周辺地域を対象に森林利用形態の変遷とその社会的・経済的ドライビングファクターの解明を行うことを目的としている。

森林利用形態を探るには周囲の土地利用も含めた地域全体の土地利用関係を捉えることが必要である。土地利用の変遷とその原因分析には、多時期の植生図、土地利用図をオーバーレイし、土地利用区分ごとの面積割合の変化を分析する手法が妥当と思われるため、過去の土地利用を再現し、地域の変遷を追うとともに、統計データから森林資源の変遷、人間の森林資源利用方法の変化、グローバルな視野でのドライビングファクターを探る。

そのためこの課題では、対象地域の森林利用の実態整理として地理情報データを用いた森林を含めた土地利用変動の把握、統計データからの森林資源の変動把握を行う。

具体的には主要な林業統計である農林業センサス、林業統計要覧等の統計から人の森林資源利用に関係が深いと考えられる項目、森林資源現況を表す項目を整理し、センサス統計データの取得方法の現状について整理するとともに阿武隈地域での森林資源利用の変遷について統計データから解析を行う。また、地理情報データを用いた土地利用変動の解析では国土数値情報等の地理データを用い、土地利用の時系列変化および土地利用項目間の面積変動から森林をとりまく土地利用構造の解析を行う。